

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991100108		
法人名	医療法人社団 湘風会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 ラパス		
所在地	栃木県矢板市泉557-1		
自己評価作成日	平成26年3月12日	評価結果市町村受理日	平成26年6月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189		
訪問調査日	平成26年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域のボランティア(フラダンス・日舞・竹トンボ・和太鼓など)を積極的に受け入れ、入居者と楽しいひと時を送れるようにしています。また、毎月隔週に1度ヤクルト販売が来所するので入居者様の好みでヤクルト・ジョア・ヨーグルトを購入して午後のおやつ時に食べています。そのうえ、少し離れた敷地内の小規模多機能居宅介護施設こもれびと合同行事(春のコンサート・秋祭りなど)にも参加して地域の住民や利用者や職員の方々と親睦を深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

居間は天井が高く天窓もあり明るい雰囲気であり、むぎだしの大きな梁が頑丈そうで安心感がある。家族から贈られた鉢植えの花を飾り、壁には行事の時の写真や入居者の書いたカレンダーや絵を貼るなど、入居者の居心地の良さに配慮した取り組みがなされている。調査訪問日にボランティアの「竹とんぼ作りの名人」が来所して、入居者は竹とんぼに思い思いの色を塗ってカラフルな竹とんぼを作り、さっそく外に出て竹とんぼを飛ばして楽しんでいた。法人全体の研修会(年3回程度)・同一法人事業所間の交流研修(年数回)、隣接する小規模多機能事業所との合同研修や事業所独自の勉強会(毎月)など、職員の資質向上と計画的な育成を目指した研修体制が整えられており、近々理学療法士を招いて生活リハビリの研修会も行う予定である。今後は、重度化や終末期に向けた事業所の方針の確立を目指して、今以上に勉強会・研修会等を重ね、医療連携体制を整えていくなどの取り組みをしていくことを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり」「一緒に」「楽しみながら」を理念とし利用者の人格を尊重し持っている能力を維持できるよう支援をしている。	毎月の定例会議では、理念を念頭に置いた支援がなされているかどうか振り返りを行い、確実に実践することを目指すようにしている。他の入居者と楽しそうにおしゃべりしたり、職員と一緒にレクリエーションに取り組む入居者の様子等から、理念に沿った支援が展開されていることが窺える。	法人で統一されたグループホーム事業の理念に沿ったケアの実践は着実に進んでいるが、今後は職員が主体となって事業所独自の理念作成に向けての検討を行い、更なるケアの質の向上に取り組むことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方に定期的な来訪や散歩中に気軽に声をかけてもらう。地域公民館の作品展に出品して見学に出掛けている。	フラダンス・竹トンボ作り・踊りや歌など、多くのボランティアが随時来訪している。特にフラダンスのメンバーに近隣住民がいるため、終了後も入居者と楽しく交流をしている。事業所の秋祭りに地域住民がたくさん来たり、入居者も地域の公民館行事等に参加するなど、活発な交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症がどのようなものか知っていただく場を設けていきたいと思うので今夏、認知症サポーターの講習会を実施する予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において区長や地域住民の方の意見を伺い、公民館活動や作品展などの参加を継続している。	隣接する同一法人事業所と共催で、年6回会議を開いている。入居者家族・自治会長・民生委員・市担当職員・地域包括支援センター職員等がメンバーとなり、運営に関する意見を述べたり情報交換等を行っている。会議資料として、運営や入居者の状況等のデータだけでなく、行事や日常生活場面の入居者の写真をたくさん添付し、事業所への理解を深めてもらうようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	矢板市の介護サービス連絡協議会やグループホーム部会に出席して日頃サービスで悩んでいることを意見交換し他事業所と情報交換をしている。	市担当職員はほとんど毎回運営推進会議に出席し、運営へのアドバイスや情報提供をしてくれている。地域包括支援センター職員についても、入居者に関する情報交換や対応の難しい入居者への支援方法について助言をもらうなど、良好な関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」について再確認をしながら身体拘束をしないように業務している。	「身体拘束禁止に関するマニュアル」を作成済みであり、法人研修や事業所の勉強会(毎月実施)の中で、身体拘束をしないケアをどう実践していくのか学習し、職員への周知徹底を図っている。入居者に対する言葉による行動抑制等についても、日常的に職員間で確認し合い、定例会議で振り返りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会・定例会議等で話し合い常に虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年同様に施設内研修で、講師を招いて実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を締結する場合は、施設長・管理者・介護支援専門員から具体的に説明し疑問や不安な点についてお答えしている。そのため十分な理解・納得していただき契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様が意見を出しやすいように職員とのコミュニケーションを大切にしているので要望や苦情が出た時は、管理者・介護支援専門員に報連相して改善に努めている。	職員は、入居者とさりげなく世間話をするようにして、その会話の中から希望や意向等を汲み取るように心掛けている。家族に対しては面会時等に意見・要望等を職員に伝えてもらうように声かけをしている。「散歩や運動をさせてほしい」という要望がよく出されるので、入居者の状態に応じて極力実践するようにしている。	「職員の名前がよく分らない」という家族からの意見を受けて、「面会時の自己紹介の徹底・毎月の利用料通知書の中に職員紹介文を入れる・年度当初に職員名を入れた文書を家族に配付する」等の検討を行っているが、いずれの方法にしろできるだけ早く実践することを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今後の方向性について個々の意見を確認している。月1度の定例会議で積極的に参加して意見を出し合い改善の方向に努めている。	定例会議では、ケアのために現場に残る職員以外は全職員が参加し、行事・業務見直し・入居者の状況等について、活発な意見交換や議論を行っている。「ヤクルト販売業者に来てもらい、入居者に好きなものを買ってもらおう」という職員の提案があり、実現までに半年かかったが、現在月2回の訪問販売の機会を設けることができ入居者に喜んでもらっている例がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が、働きやすい環境整備がされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修や認知症に対する講演会や勉強会に参加して情報交換をしている。今後も研修の機会を検討している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム交流会に参加して事例検討など情報交換をふまえてサービスの質の向上に努めている。また、同系列グループホームと交流もしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談しやすいように丁寧に且つ明るい笑顔で本人の生活歴などを確認しながら対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に現況を十分に確認したうえで当施設の情報を交えながら話し合いに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が居心地良く過ごせるようにニーズの把握するために常に幅広い知識と情報を把握し良い方向に支援するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来ること出来ないことを把握し食器拭き・洗濯物たたみやカーテン開閉など自分たちでできることを共に過ごす者同士として良い関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来所時は、個々の居室でゆっくり話が出来るように配慮している。また、利用の様子を定期的にお知らせして健康状態・薬の管理などを連絡している。病院受診は原則として家族対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知り合いの方が、面会に来た時にも気軽にゆっくり話ができるように配慮している。	近隣地域からの入居者がいて、友人や知り合いがよく訪ねてくるが、ゆっくり過ごしてもらえるよう配慮し、楽しそうにおしゃべりをしていることがある。今年の正月には、事業所と家族で話し合いの上、3名の入居者が家族のもとに泊まりで外出するなど、関係継続への支援に取り組んでいる。夫が先に入所していたが、妻も介護が必要となり、現在別室だが夫婦で入所している事例がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者は、共に生活する仲間ということを理解している方が多く見られる。また、職員は利用者の性格などを理解し孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入居された方の家族と会う機会があれば情報を交換している。入院した場合も時々面会してその後の相談に応じている。		
Ⅲ. そのらしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いはそれぞれ個性がある。今までの生活歴・趣味や特技などずっと続けられるように思いを受け止めている。	字を書くのが好きで日記を毎日つけている方に、掲示物を書いてもらったり、生け花の得意な方に正月飾りの花を生けてもらうなど、一人ひとりの趣味や特技を発揮してもらう機会を設けている。入所して初めて塗り絵をやったが、緻密でとてもきれいな色使いをする方がいて、今では毎月のカレンダー作りで活躍してもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初めての介護施設を利用する人には、介護保険の使い方から説明し他施設から利用する人は、情報を提供してもらい順次た介護に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のあいさつから1日の過ごし方を把握できるように職員間の申し送りをしっかり行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を家族と話し合いながら作成し自分でモニタリングするか他職員にもモニタリングしてもらい少しでも楽しめる生活をしてもらえるよう考えている。	ケアマネージャーは、入居者や家族からの意見・要望等を聞き取り、入居者の生活状態やケアの実践状況について定例会議等で議論された結果等を踏まえ、サービス担当者会議を経て介護計画を作成している。ケアマネージャーは、個別の散歩や買い物の機会に同行するなどできるだけ介護現場に入り、どうしたらその人らしい生活ができるかということを念頭に置いて、介護計画の作成及び見直し等を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員からの情報や自分で見たことを経過記録に残し定例会議などで話し合いをして介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人にとってより良いサービスが出来るように努めている。地域性を生かした(田畑に囲まれている)散歩や畑作りに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	フラダンス・踊りや唄・竹とんぼなどの地域の方を含めたボランティアに来ていただき楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、基本的に家族対応でお願いしている。家族が、遠方の方や困っている場合は同行して受診の際に現状を説明している。	かかりつけ医への受診付き添いは原則として家族となっており、家族に日常生活の様子を口頭で伝えたりメモ書きして渡して受診の際の参考にしてもらっている。家族による通院介助が難しい場合は職員が受診に付き添い、詳しい状況説明が必要な場合はケアマネージャーが付き添い受診している。受診後の医療情報は確実に職員へ伝えられ、ノートに記録したり申し送りをして情報の共有化を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が、常駐していないので隣接している小規模多機能居宅介護施設こもれびの看護師に相談をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、出来るだけ早く病院を訪問しこちらの情報を伝えるとともに現状の把握にも努めている。また、近くの病院関係者と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	認知症や他の疾患の把握に努めるとともに重度化した場合についての話し合いもしている。グループホームでの生活が、難しくなった場合は他の施設の紹介に努めている。	法人としての研修会や事業所としての勉強会でターミナルケアについての話し合いを行っており、今後も継続的に取り組む予定である。ターミナルケアには欠かせない医療との連携が、今はまだ十分整っていない段階であるが、家族や本人からの強い希望があった場合などに、どう対応するか検討していく必要性を感じている。	重度化や終末期に向けた事業所の方針の確立を目指して、今後も研修会等を重ね、医療連携体制を整えていく努力をしていくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを分かりやすい所に掲示し定例会議で確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行い消防署からの指導を受けている。緊急連絡網も分かりやすい位置においてある。	防災に関するマニュアルが整備され、災害対策についての研修を行っている。日頃から近隣住民との交流を行い、有事の時の協力体制が得られやすい環境を整えている。消防署の協力を得て年2回避難訓練を行っている。夜間想定訓練では、初期消火にミスがあり反省点としている。2月の大雪を経験し、備蓄品についての見直しを検討している。	実施した避難訓練での反省点を活かして、どのような場面においても落ち着いて行動ができるよう、今後も継続的な取り組みを行うとともに、地域や消防署との連携の強化にもより一層力を入れてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライドに配慮し名字での声かけを心掛けているが同姓の人がいるため下の名前前で呼ぶこともある。排泄時は、耳元で声かけするなどしている。	プライバシー保護についてのマニュアルがあり、研修会や定例会等で確認している。トイレ介助や入浴介助では、入居者の意向に沿うよう配慮しており、失禁等の失敗があっても、プライドを傷つけないような対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話や表情で本人の思いをくみ取るように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり1日中で行動のペースは、違っている。出来る限り希望に添えるようすべて同じでなくてもよいように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備時には利用者の衣類を一緒に選んでいる。ボランティアによるお化粧をした時もととても喜んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、一緒に食べて談話したり声かけしながら食べている。季節の食べ物を一緒に作ることもある(しもつかれ・たんさん饅頭)。	主菜や副菜は配食業者と近所の鮮魚店で調達している。御飯・味噌汁・その他1品を職員が手作りし、夏は敷地内の畑で収穫した野菜(ナス・トマト・きゅうり・かぼちゃ・おくら等)が調理され食卓にあがることもある。入居者はそれぞれ自前の茶碗や箸を使い、ゆっくりと食事を楽しんでいる様子がうかがえる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食器拭き・テーブル拭きを手伝ってもらっている。カロリー制限食は、主食のグラム数などで管理している。食事量・水分量の記録をしている。特に水分不足にならないように気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。出来る人は、声かけで出来ない人も一部介助で実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を見て長時間トイレに行かれていない時は、耳元で声かけし誘導する。それ以外にも定期的に声かけし誘導している。	排泄チェック表を参考に、個々人に合わせて声掛け誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。ほとんどの方がリハビリパンツとパッド使用であるが、パッドのみの使用の方もいる。トイレ介助の際には、出来るところは自分でやってもらうようにしており、失敗があった時でも本人の気持ちに寄り添い、プライドを傷つけないような対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	月に2回ヤクルトの配達が入所する。ご自分の好きなものを選んでいただき提供している。それ以外でも3時のおやつに食物繊維の多い食材を使用して提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合で入浴日は決めているが、体調が悪い時は入浴日を変更している。1対1で基本入浴を行っており利用者様と談笑しながら行っている。	入浴は個浴で行っており、好みの湯加減に調整し、ボディソープかせっけんの好きな方を選んでもらい、個人専用の洗身タオルを使ってゆったりと入浴している。桃の葉の入浴剤は好評であり、冬至にはゆず湯を楽しんでいる。入浴の理解ができない為に気分によってスムーズに入れない方もいるが、職員はその方に合せた声掛け・誘導等を行い、気持ち良く入浴してもらえるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠が強い時や体調不良を訴えた時は、居室で休んでいただくよう声かけを行っている。夜間は、湯たんぽ・電気毛布・室内に暖房をかけたたり本人の希望に合わせ対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が、配薬し薬を渡す前には、袋に書いてある名前・日付・時間を読み上げ誤薬が無いように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味などを参考にその人が、興味を持って行えるものを考え支援に努めている。また、ご自分で出来ることは、していただきその人に合った楽しみ方を出来るように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、ウッドデッキにてひなたぼっこを行ったり少人数で施設周辺に散歩に出掛けている。	入居者は、限られた方ではあるが近くのコンビニや道の駅などに出かけていき、自分の好きなものを選び買い物をしている。家族に美容院へ連れて行ってもらい、外出などをして入居者もいる。花見や紅葉狩り・地域のお祭りなど、四季折々に戸外へ出かける機会を設けている。今後近所の昭和時代の雰囲気を残した喫茶店へ出かけて行き、お茶を飲む計画も考えている。	体調や本人の意向の影響で外出する入居者が3分の1程度に留まっている現状があるが、今後、体調等を考慮しながら、工夫をしてできるだけ多くの入居者に外出する機会を設けていくことを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コンビニエンスストアや道の駅・近くのスーパーマーケット等で買い物する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の方から定期的に手紙が届き利用者様に渡している。連絡事項があれば伝えていただくよう声かけを行っている。電話して欲しいと要望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の作品を壁に貼ったり季節に応じて飾る作品を変えて季節感が、できるように努めている。	玄関には、かわいいハート飾りがかけられ、松ぼっくりや季節感のある兜飾りが置かれているほか、畳台が置かれ靴の着脱時に腰掛として利用されている。居間は天井が高く天窓もあり明るい雰囲気であり、むきだしの大きな梁が頑丈そうで安心感がある。家族から贈られた鉢植えの花を飾り、壁には行事の時の写真や入居者の書いたカレンダーや絵を貼るなど、入居者の居心地の良さに配慮した取り組みがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様一人ひとりご自分が過ごしやすい場所で思い思いに過ごしていただけるよう見守りしながら支援に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで慣れ親しんだ馴染みのある家具や家族写真やご本人が、大切にされていたものを持って来ていただき過ごしやすい空間が出来るように努めている。	居室は明るく、入居者の誕生会の時の写真入りの色紙や塗り絵や切り絵など本人の作品が飾られている。エアコンの他に加湿器または濡れタオル等で適度な温度と湿度を調整し、居心地良く過ごせるよう配慮している。冬は入居者の希望に応じて湯たんぽや電気あんかを提供している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも移動可能なように広い造りとなっているため自立した生活が支援できるように努めている。		